

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】 ～ 公立高校日本一をめざして ～

- 大阪を代表する公立高等学校として、府民から信頼される学校。
- 日本や国際社会で活躍する高い「志」を持ったリーダーを育成する学校。
- 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校。

【生徒に育みたい力】

- 自由闊達・質実剛健・文武両道の校風を理解し、深い教養を身につけるだけでなく、行事・部活動・探究活動等に積極的に取り組む意欲。(意欲)
- 目標に向かって全力を尽くすために必要な思考力・判断力・表現力と、それらに基づく行動力。(行動力)
- 世界市民として多様性を理解し協働性を備え主体的に社会貢献しようとする高い志。(志)
- 様々な個性の存在を理解するとともに尊重し合う優しさ。(優しさ)
- 「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含んだ「確かな学力」

2 中期的目標

1 学力の育成

- (1) 天高スタンダードに基づいた高い学力、および中教審答申(H26.12.22)に示された「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含んだ「確かな学力」の定着に取り組むとともに、中教審答申に示された新しい入試制度への対応を研究する。
- ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均を平成29年度末には3.45以上をめざす(H27年度は4点満点で3.44)。
- イ 文武両道をさらに追求する(部加入率95%以上を維持)。学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させ、(平成27年度末67%)平成29年度末には70%以上をめざす。
- ウ グループ活動、ペアワーク、ディベート、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型の指導方法を積極的に取り入れ、「確かな学力」を生徒に身につけさせる。
- エ 平成32年度入試から、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の成績に加え、『小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、大学入学希望理由書や学修計画書、資格・検定試験などの成績、各種大会等での活動や顕彰の記録、その他受検者のこれまでの努力を証明する資料』が大学入学希望者選抜の材料になることに対応し、情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。
- オ 中教審答申には、平成32年度以降の入試の多面的な評価の方法として「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。ペーパーテストによらないこのような新しい評価を徐々に生徒に示していく。
- カ TOEFLの授業や国際教育の機会を通じて4技能を備えた英語力を身に付けさせる。平成30年度にTOEFLiBT又はTOEFLiBT CHALLENGE 80点以上10人、60点以上30人をめざす。(平成26年度はTOEFL CHALLENGE 第3回目72人受検 80点以上2人、60点以上8人、50点以上8人)
- (2) 学習指導の充実に取り組む
- ア 天高育成プログラムを基に、各教科で3年間を見通した学力育成プログラムを展開する。
- イ 自主教材の更なる充実を推進し、天高オリジナル教材の数を増やす。(H27年現在は国・世・数・化・英・保体の自主教材ができています)
- ウ 平成29年度までには電子黒板またはプロジェクターを全教室に導入し積極的に活用する。
- エ 研究授業、公開授業の充実(教科の枠を超えた授業研究の実施)し、互いに見学する回数を1人平均5回以上にする(平成27年度は5.0回)
- オ 4技能を備えた英語力を生徒に身に付けさせるため、TOEFLを活用した指導法を開発し確立する。
- カ 「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」、達成度の基準を示す「ルーブリック」など多面的な評価法を研究し徐々に取り入れる。
- (3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ
- ア SSHの「課題研究」、文系生徒の課題研究をさらに充実させ、「創知」(学校設定教科)の内容や配列を工夫し、探求的学習活動をさらに充実させる。
- イ 桃陰セミナーの活用を一層推奨する。→ 土曜日は学校で自学自習の習慣づけ
- ウ 部学習日を充実させる。→ 同じクラブ内での相互指導と学習

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成

(1) グローバルリーダーの育成

- ア SSHやGLHSの取組や国際交流を通して国際感覚を身につけさせる。
英語圏との交流、アジア各国各地域との交流、国内での国際活動を通して国際教育を充実させる。
- イ 新たに立ち上げた台湾研修を、①アジア理解とアジア研究、②アジアの若者との英語による交流、③文系の国際研究活動の機会として充実させる。
- ウ 科学に秀でた人材の育成をめざし、SSHの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営する。

(2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。

- ア 教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な問題で登校できなくなる生徒を支援する。
- イ 平成19年に学校教育法が改正され、「高校においても障がいのある生徒に対し、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行う」と規定されたことを踏まえ、天王寺高校としての生徒への支援体制整備とインクルーシブ教育推進を行う。平成27年6月に改定を加えた「教育相談活動確認事項」を効果的に運用するとともに継続的に改訂を加えていく。

(3) 京都大学・大阪大学との連携協定に基づきGLHSの事務局校として両大学との連携を進める。

- ア 京都大学と連携協定に基づくキャンパスガイド等を通して高い志の育成をはかる。
- イ 大阪大学との連携協定に基づく10校発表会等を通して高い志の育成をはかる。

3 中堅、若手教員の資質の向上

- ア 新規採用教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成をはかる。
- イ 若手教員の教科指導力と生徒指導力を育成する。中堅教員に学校運営の視点を身につけさせる。
- ウ 予備校等外部教育機関のベテラン教員や広報担当者を招聘し、授業展開に主眼を置いた研修会を開催する。

4 校務の効率化

- ア ICTを活用した校務の情報化(イントラネットSHARED等の有効活用)により会議等で使う紙をできるだけ少なくする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者による回答</p> <p>有効回答数 850/1077 (1年 284・2年 280・3年 286 回収率 79%)</p> <p>「非常にそう思う」と「そう思う」という肯定的な意見が 85%を超える項目が全 23 項目中 17 項目で昨年度より増加している。(昨年度 16 項目) この内 7 項目については 90%以上の肯定的回答を得ており、中でも「部活動が活発である」94%、「他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」93%と高く、本校の教育方針が支持されているものと思われる。ただ、「PTA 活動に参加しやすい」は 66%と昨年度 (62%) 同様他に比べると低い。学区撤廃、全クラス文理学科等により遠方から通学する生徒の増加していることが要因の一つと思われる。</p> <p>生徒による回答</p> <p>有効回答数 1059/1077 (1年 355・2年 347・3年 359 回収率 98%)</p> <p>「学校での友人関係はうまくいっている」95%、「部活動に参加している」100%、その他肯定的な回答が 85%を超える項目が全 38 項目中 20 項目あり大多数の生徒が本校での学校生活に満足しているものと思われる。「清掃活動が行き届いている」と「施設・設備が適切に整備されている」は 53%と 56%と低い。これらは校舎が築 20 年を超え設備の老朽化による不具合等が影響しているものと思われる。120 周年記念事業としてのトイレ改修工事や公費による福祉工事が進められており、出来るところから施設・設備の改善を図る予定である。</p> <p>教員による回答</p> <p>有効回答数 66/67 (回収率 99%)</p> <p>昨年度より 31 項目において肯定的な回答が増えており、中でも「学校運営に教職員の意見が反映されている」は+25%で 70%の肯定的な回答を得た。また、「校長は自らの教育理念や学校経営の考え方を明らかにし、リーダーシップが発揮されている」は 100%となり、教職員間の意思疎通がしっかりできていると思われる。</p>	<p>第 1 回 (6/25)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文武両道を掲げていることは素晴らしいが、部活と言ったときに運動系の話題が中心になってしまっているように感じる。もっと文化系の部活への奨励も行うべきではないか。 ・宿泊研修で台湾へ行くことは非常に良いことである。初めて海外と交流を持つ生徒たちにとって、台湾は最もふさわしい国である。これから国際的な活躍をするためにも歴史を学ぶことがとても重要になってくる。実施する前に台湾と日本の歴史的な関係性や、現在の台湾の立場などについて事前学習をきちんと行って欲しい。 ・天王寺高校は先輩と後輩のつながりが特に強い。先輩後輩の関係を学べる時間として部活の時間をしっかり確保してやってほしい。 ・部活については、盛んである一方で教員の負担にならないように気をつけなければならない。 ・生徒達が高校生活を楽しく過ごしていることがわかったが、一方でしんどくなった生徒も出てきている。どんな形であれ、優しい配慮をし、天王寺に入学してきた生徒たちがみんな卒業できるようにしてほしい。 ・数少ない国際問題に関わっているOBを大切にすべきである より多くの機会ですういうOBが生徒に話をする機会を作ってほしい。 <p>第 2 回 (11/26)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートについて、「施設・設備全般について適切に整備されている」の肯定的意見が減ってきているのは問題である。環境整備をすることは、感性を豊かにしたり、不正を防止することにもつながるので、十分考えるべきだ。 ・大学で1からパソコンを教えないといけないことが多いが、パソコンが使える能力は社会に出たら必須である。課題研究の中でパソコンを使用することで、大学教育を変えることをめざせるだろう。 ・学業と部活の両立が大変な中、部活動加入率 100%は素晴らしい。若手の教員の部活に対する熱意が強いことは良いことだが、超過勤務につながらないようにお願いしたい。 <p>第 3 回 (1/28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 活動で保護者が参加できる行事がもっとないかを考えたとき、国際交流で生徒だけでなく保護者も参加できるようにするというプランは非常に良い案なので、ぜひ推進してほしい。 ・発達障がいについての職員研修に保護者も参加でき、講師への質疑応答の時間で保護者の手がたくさんあがったのは良い機会であったと考える。 ・アンケート結果に変化があるときそこには何か背景があると思われるので、分析にもとづいて対応する必要がある。また、土曜日の学習活動について有意義と回答した割合に、教職員と生徒とのギャップがあるが、それを埋めるべきだ。 ・いじめの対応、自殺、部活動中の熱中症や事故など、危機管理対応は大事である。知識、経験の少ない若手にベテランが指導するべき部分である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の育成	(1)天高スタンダードの実施と検証を行い各教科ごとの到達度を高める。中教審答申に示された「確かな学力」を生徒に身に付けさせる。また、新しい入試制度を研究する。	(1) ア・教科運営委員会で天高スタンダードを点検、整備していく。授業アンケートの結果を高いレベルで維持する。 イ・文武両道をさらに追求する。学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させる。 ウ・グループ活動、ペアワーク、ディベート、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型の指導方法を国語、社会、数学、理科、英語の各教科で積極的に取り入れる。(保体、芸術、家庭、情報の実技教科はすでにアクティブラーニング教科である) エ・新しい入試制度に関する研修会や説明会に参加し、校内での情報共有を行い、可能な範囲で日々の授業等に反映させる。 オ・パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」、達成度の基準を示す「ルーブリック」など、多元的な評価の方法を徐々に生徒に示す。 カ. 4技能を備えた英語力を身に付けさせる。 キ. 科学オリンピック対策講座を開催する。科学オリンピックへの参加者 120 名以上を維持する。	(1) ア・天高スタンダードの改訂を継続する。授業アンケートの全体平均 3.35 を維持する。(H27 年度 3.35) イ・部加入率 95%以上を維持(H27 年度 99%)。学校教育自己診断において部活動との両立ができている生徒を 68%にする (H27 年度末 67%) ウ・国語、社会、数学、理科、英語の各教科で少なくとも 1 回以上、アクティブラーニング型の授業展開を試みる。(全教科 1 回以上) エ. 新しい入試制度に関する研修会や説明会での情報を職員会議で共有する(1 回以上) オ. 全教科で最低 1 回は「ルーブリック」を作成し使ってみる。 カ. TOEFLiBT CHALLENGE 80 点以上 5 人、60 点以上 15 人. MOOCs の授業を継続する。 キ. 科学オリンピック対策講座開催。科学オリンピック参加者 120 名以上を維持し、2 名以上の受賞者を出す。 H24 62 名 内、受賞 1 H25 110 名 内、受賞 2 H26 149 名 内、受賞 5 H27 121 名 内、受賞 5	(1) ア 1 回目全体平均 3.35 2 回目全体平均 3.45 (○) イ 部加入率 100% (学校教育自己診断) 部活動との両立ができている 70% (○) ウ 各教科でのアクティブラーニング導入 100% 各教員のアクティブラーニング導入 94% (○) エ 職員会議において、管理職、教務主任、進路指導主事から適宜情報提供を行った。(○) オ 各教科でのルーブリック活用 100% 各教員のルーブリック活用 87% (○) カ 80 点以上 6 人 60 点以上 19 人 (受検者 69 人中) MOOCs の授業 2 講座延べ 46 人参加 キ 科学オリンピック参加者 232 名。受賞者 7 名。(○) H25 110 名 内、受賞 2 H26 149 名 内、受賞 5 H27 121 名 内、受賞 5 H28 232 名 内、受賞 7
	(2)学習指導の充実に取り組む。	(2) ア・研究授業、公開授業の充実 イ・技能を備えた英語力を生徒に身に付けさせる。 ウ・パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」、達成度の基準を示す「ルーブリック」など多元的な評価法の研究と実践。	(2) ア・授業見学(5 回以上) イ・TOEFL に関する指導法の確立 ウ・多面的な評価に関する研修や勉強会に参加する(1 回以上)。	(2) ア 各教員の授業見学数 平均 6.1 回 (○) イ TOEFL の授業について他県や私学からの見学依頼 5 件→指導法の確立に向かって進行中 (○) ウ 多面的な評価に関する職員全体研修実施 H28. 6. 30 評価のパラダイムシフト研修(カリフォルニア大学・當作靖彦教授)に 4 名参加 (○)
	(3)探究活動の充実、自学自習の習慣づけ	(3) ア・探究活動を充実させる。 イ・桃陰セミナー、部学習日を充実させる(土曜日を活用した自習活動)。土曜日の半日を「部学習日」として部単位で自学自習を継続し推奨する。 ウ・全学年、夏期休業中に勉強合宿を実施し、さらなる学習意欲を増加させるとともに自己の将来を展望させる。 エ. 大学進学実績の維持	(3) ア. 学校設定教科「創知」を初 1 年のカリキュラムに設定したことを検証する。阪大公共政策と連携して文系生徒の課題研究を充実させる。 イ・桃陰セミナー参加者数の維持。1 日平均 250 名以上 (H27 年度 1 日平均 278 名) を維持する。 ・部学習日の参加者数の総計 1000 名以上をめざす。 ウ・全学年の勉強合宿を例年通り 150 名超の規模で開催する。 H27 1 年 208 名 2 年 176 名 3 年 189 名 エ. センターテスト 5 教科受検者数学年の 95%以上を維持。(H28 年入試 98%) 国公立大学合格者現浪合わせて 270 人以上の維持。(H28 年入試人)	(3) ア 1 年生に設定した「創知」の検証をもとに、H29 年入学生のカリキュラムを作成し、H28 年入学生の 2 年次カリキュラムを一部改訂した。文理学科文系生徒全員が課題研究に取り組んだ。(○) イ 桃陰セミナー参加者数 1 日平均 289 名 部学習日参加者数 756 名 (△) (土曜授業、土曜行事の増加による) ウ 勉強合宿参加者数 (○) H28 1 年 174 名 2 年 223 名 3 年 202 名 ※ 1 年生は 80 名規模の別行事 (Road To GL) と日程が重なったため参加者数減となった。 エ センターテスト 5 教科受検者数 95% (○) 国公立大学合格者現浪合わせて (264) 人 (△)

府立天王寺高等学校

2 グローバル社会に貢献できる人材の育成	(1) グローバルリーダーの育成	(1) ア・海外研修や国際行事など、国際感覚を身に付ける機会を充実させる。H27年度は、派遣型研修としてハーバード研修11名、ケンブリッジ研修8名、オーストラリア研修5名、カリフォルニア研修29名、台湾研修4名、合計57名が参加。受入型交流として、イングリッシュデイに33名が参加。 イ・低料金を多人数の参加を可能にし、生徒の①アジア理解とアジア研究、②アジアの若者との英語による交流、③文系の国際研究活動を目的に立ち上げた台湾研修を検証する。 ウ・SSHの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営する。 エ・天高アカデメイアを継続実施する。 オ・ネイティブを講師とする英語漬けの国内研修を試行実施する。	(1) ア・H28年度の参加者合計をH27年度以上にする。 イ・参加費、参加人数、研修内容の検証。 ウ・大阪サイエンスデイにおいてルーブリックを使った評価を試みる。 エ・天高アカデメイアの満足度80%以上を維持する。 オ・外部機関による英語エンパワメント研修を8月初旬に試行する。	(1) ア 派遣型海外研修参加者数 ケンブリッジ研修11名、オーストラリア研修6名、台湾研修30名合計47名が参加。受入れ型交流として、Road To GLに83名、韓国慶南女子高校に2年生約50名、さくらサイエンスプランによる台湾交流校受入れ（ホームステイ、大阪サイエンスデイでの研究交流、2年全クラスへの授業参加等）で概ね1、2年生全員720名との交流を実現した。(○) イ 台湾研修を全校生徒が関わる相互交流に発展させた。(○) ウ 大阪サイエンスデイではルーブリックの活用はできなかったが、見学者全員による観点別認定評価を行うことができた。(△) エ 天高アカデメイアの満足度79%(△) オ Road To GLと名付けたエンパワメント研修を実施した。(○)
	(2) 生徒理解の促進と安心な学校作りのための体制の促進	(2) ア・支援コーディネーターの専門性を高め教育相談機能を充実させる。 イ・改訂した「教育相談活動確認事項」を効果的に運用する	(2) ア・研修等に2回以上参加する。そのスキルを教員間で共有する。 イ・合理的配慮をおこなうためのノウハウと実践結果を積み上げていく。	(2) ア 支援コーディネーターが3回の教育相談関連研修に参加した。また、発達障がい理解のための職員研修兼PTA保護者研修を実施した。H28.12.5(○) イ 合理的配慮に関する理解を進めることができた。職員の合意のもと特別配慮の生徒を3名認定しそれぞれ進級卒業に導いた。(○)
	(3) 京都大学・大阪大学との連携	(3) ア・京都大学、大阪大学との連携協定に基づき両大学と連携を維持する。 イ・大阪大学との連携協定に基づく10校発表会において、評価の基準を示すルーブリックに改良を加える。	(3) ア・京都大学、大阪大学との連携を維持する。 イ・H27年度10校発表会で使ったルーブリックをH28年度版に改良する。	(3) ア 大阪大学ツアーH28.11.19、京都大学キャンパスガイドH28.11.23を実施した。(○) イ 府教育庁、大阪大学による新たなルーブリックがGL10 校長の意見を反映させた形で10校発表会で使われた。(○)
3 中堅、若手教員の資質の向上	・若手教員の育成	○ 桃陰塾（若手教員の勉強会）→首席を世話役として月1回自主的勉強会（先輩教員の講演会、ワークショップなど）の実施年間通して、若手教員間での授業研究を促進する。 ○ 教科指導力の向上をめざして大学と連携し、大学の専門知識をもった教授等から指導を頂く機会を作る。 ○ 本校の文武両道の理解推進。天高育成プログラムの理解の増進。	ア・新採用の教員については相互の授業見学を1人5回以上行う。 イ・新規採用者全員に公開研究授業と研究協議会を1回以上実施させる。 ウ・学校行事に対する意識の改善。学校教育自己診断の結果、昨年度のマイナス項目を改善する。	ア 新採用の3人の教員は、相互の授業見学を10回以上行い、授業力を向上させた。3人のうち、2人が授業力評価S、1人がA。(○) イ 公開授業と研究協議会をそれぞれ1回ずつ実施した。(○) ウ 評価育成面談のほか、校長との面談を適宜（年間3回ずつ）行うことにより、本校教育への理解を促進した。